山ス協 第22号
令和7年4月8日

各競技団体会長 様

公益財団法人山形県スポーツ協会
副会長・競技力向上委員長 黒田 一彦

滋賀国スポに向けた『ふるさと選手制度』のより実効ある活用について
(依頼)

日ごろ、本県の競技力向上に多大なご尽力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、各競技団体におかれましては、新年度を迎え今年の「滋賀国スポに向けた強化」に取り組んでいただいていることと拝察します。

国スポにおける成年の部の強化策として、『ふるさと選手制度』の積極的な活用が効果的であり、そのためにはより早い段階から選手が大会に出場しやすい環境を整備する必要があります。

については、4月から5月上旬を目途に、選手並びに所属大学や企業の監督等に依頼文書の発出等を含めて連絡を一層密にとっていただくようお願い致します。

是非、最強メンバーによるチーム編成で東北ブロック予選を勝ち抜き、今年の滋賀国スポに臨むことを切に願っております。

『ふるさと選手制度』について

卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校所在地の都道府県を「ふるさと」として選択できます。

ただし、「ふるさと」は、各卒業学校所在地のいずれか1都道府県のみで、「ふるさと」として登録した都道府県については、手続き終了後変更できません。

従って、**他県の中学校及び高等学校に進学した県内選手が大学等に進学した場合、最初に登録した都道府県が「ふるさと」になりますので、その時期の選手への説明と登録依頼を特にお願します。**

また、「ふるさと選手制度」の活用は、原則として1回につき2年以上連続とし、活用できる回数は2回までとなります。